

衝突・乗揚事故に注意！

【平成29年7月】

衝突・乗揚事故を防止するために

事前の水路調査

事前に航海する海域の水路調査を行い、海図等により浅瀬等の危険な海域や定置網等の存在を把握しておきましょう。

見張りの徹底

航行中に限らず、錨泊・操業・遊漁中であっても、常に**適切な見張り**を励行し、早めの避航動作をとりましょう。

居眠りに注意

居眠り防止装置の使用や見張りを**交代し休息を取る**などの対策を講じましょう。

自動操舵使用時は注意

自動操舵使用時に発生している事故の多くの原因は「見張り不十分」「居眠り運航」となっていることから、自動操舵装置付属の**アラーム装置の導入及び利用**を心がけましょう。

また、次のような場合は、**手動操舵**に切換え、安全に操船しましょう。

- ①港内 ②船が多い海域 ③荒天、視界不良時 ④周囲に浅瀬等がある場合
- ⑤潮流が強い狭水道 ⑥他船が接近するとき ⑦針路を変えるとき

万が一の事故に備え

ライフジャケットを常時着用しましょう。

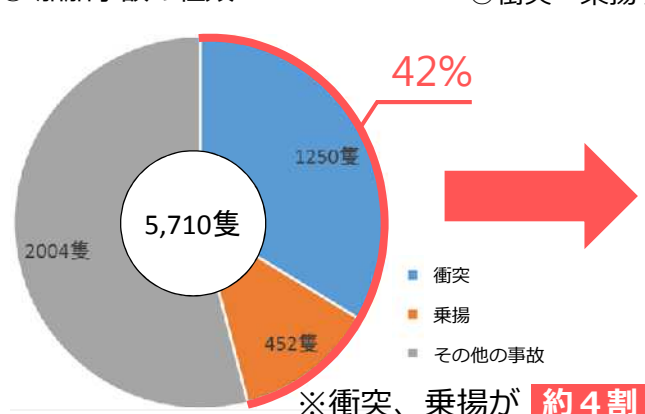
防水パックに入れた携帯電話を携行し、**連絡手段を確保**しましょう。

出入航時刻等をマリーナ、家族等に**伝えてから出航**するように努めましょう。

過去5年間における小型船舶事故※の特徴

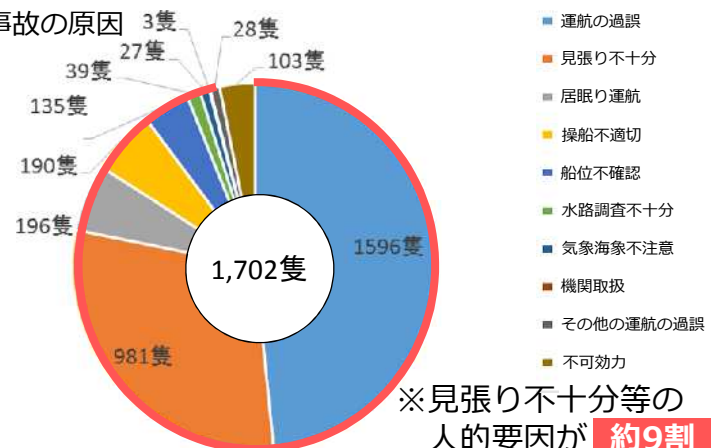
※小型船舶 … プレジャーボート、漁船、遊漁船

○ 船舶事故の種類



※衝突、乗揚が **約4割**

○ 衝突・乗揚事故の原因



※見張り不十分等の人的要因が **約9割**

お問い合わせ



海上保安庁

〒100-8976 東京都千代田区霞が関2-1-3
(安全対策課) 03-3591-6361

海の安全情報

検索